

「チームやまぐち」強化計画について

平成27年3月に5ヵ年(2015年～2019年)計画を立案し『チームやまぐち』の8位入賞をめざす強化目標を策定しました。昨年がその初年度で、具体的な短期強化策として長年の懸案事項であった①中高生を主体にした県全体強化練習会を定期的(月1回)に実施。②夏季・冬季2回の強化合宿、1月大会前に選手決定のタイムテストの実施。③強化指定選手の選定と優秀選手の推薦。この3点をメインに強化に取り組んできました。その結果トラックシーズンにおいて中高生の強化指定選手が活躍し、例年以上の記録の大きな伸びが見られました。

特に防府市立国府中学校3年森廣彩音選手(現西京高校)が全国中学校大会1500m 5位入賞、記録も31年ぶりとなる県中学最高記録を更新する4'27"30、また高校生も西京高校1年西永菜津選手の国体少年B1500m6位入賞、記録は20年ぶりの県高校記録更新なる4'20"63と素晴らしいものでした。一般選手においても県優秀選手認定の新井沙紀枝選手(大阪学院大学)が全日本インカレ5000m優勝と素晴らしい活躍を見せてくれました。

これらの選手を中心に、現段階においてはほぼ理想に近い中学生3名、高校生6名、実業団・大学全選手4名による『チームやまぐち』を編成することができました。

第34回大会(2016.1)では『県最高記録更新・10番台順位』を合い言葉にレースに臨みました。高校生にとって負担は大きかったのですが、1区棟久選手(西京高校)の粘走、2区竹本選手(ダイハツ)の好走が3区森廣選手の区間5位を生み出し、総合順位も13位まで上がりました。以後順位の変動はありましたが、中学生・高校生・ふるさと選手たちも全国の強豪選手に臆することなく走り抜き、最終区では新井選手が力走し、目標達成の16位でゴールインすることができました。記録も18年ぶりの県記録更新となる**2時間19分16秒**の県最高記録を樹立することができました。大会後、選手全員お互いの健闘を讃えあい、成果を喜び合って帰途に就くことができました。

これもひとえに県民の皆さまのご支援・ご協力・ご声援の賜物と感謝する次第です。

さて今年度は5ヵ年計画初年の成果を踏まえながら3月に新たな強化指定選手・県優秀選手を指定し、定期的な強化練習会をスタートさせています。

平成27年4月、県内の実業団チームの消失により、今後も山口県出身者(オール山口)のみのチーム編成になります。『チームやまぐち』の重要課題は中高生を中心にしたジュニア層のより高い競技力向上と競技への意識を高めることです。それが将来的に有力なふるさと選手、大学生選手の招聘につながり『チームやまぐち8位入賞目標』の布石になると考えます。今後ともより一層選手強化に努めてまいりたいと思います。ご理解、ご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

平成28年5月

第34回皇后杯全国都道府県対抗
女子駅伝大会 山口県女子選手団
スタッフ 一同

【ふるさと選手・学生選手】から34回大会出場の感想が寄せられました。紹介します。

天満屋陸上競技部

藤田友里恵 選手（6区）

山口県チームに参加させてもらって感じたことは、私が高校生の時に参加した時とは違い、選手同士のコミュニケーションが取れていて雰囲気の良いチームだなということでした。これは中高生の合同練習をやってきたことで、選手同士の仲が深まる大きなきっかけになったのではないかと感じました。中学生から一般までのみんなが一つになれていたことが結果にも繋がったと思います。

自分自身、若い選手に重要な区間を任せてしまって申し訳ないという思いがありますが、このレースをきっかけに一步前に進めた気がします。次は長い距離の区間を走りたいという気持ちもありますし、その区間を安心して任せてもらえるように力をつけたいと思っています。そして将来的な目標としてマラソンで活躍できる選手になりたいです。

大阪学院大学陸上競技部

新井沙紀枝 選手（9区）

今回、私は3年ぶりに山口県代表としてアンカーを走らせてもらいました。初めてのアンカーは緊張もありましたが、自分に挑戦するつもりで楽しく走れました。

走ってみて、実業団の選手の強さ、オーラを肌で感じ、まだまだ未熟であることを痛感し、もっと力をつけたいと思いました。またチームのスタッフさんとも高校時代以上に交流ができ、たくさんの人たちが応援してくれていると感じました。感謝の気持ちを持って、またその気持ちを伝えるべく、色々な大きな大会で結果を残していきたいです。

ダイハツ陸上競技部

竹本香奈子 選手（2区）より

レースは昨年までの高校生の時と少し違う緊張感を持ったレースとなりました。調整が上手くいかずに臨んだレースとなり納得の走りができず、足を引っ張る形になってしまいました。しかし、先輩や後輩たちがカバーしてくれる走りをしてくれたので今回のよい結果に繋がったのだと思います。山口県チームは年齢がバラバラでも仲がよく明るく楽しいです。この明るさを無くしてはダメだと思います。この大会で駅伝の楽しさ、走る楽しさを再確認することができました。2020年の東京オリンピックに出られるよう大きな目標を持ち、日々の練習に励んでいきます。来年も呼んでいただける選手となり、来年こそはチームを引っ張れるエースとなって出場したいと思うのでよろしくお願いします。